

令和7年度 八王子市立第九小学校 学校経営計画

令和7年5月1日
八王子市立第九小学校
校長 村上 正昭

1 はじめに

(1) スローガン

笑顔あふれる学び舎で、学校・家庭・地域の協働の下、全教職員一丸となって、6年間で子どもたち一人一人の可能性を最大限伸ばす「みんなが輝く、みんなで輝く」学校を実現する。

(2) 令和6年度の課題

- ①学校評価：学校評価で他の項目に比べ、肯定的な回答が少なかった「いじめを許さない学校づくり（89.6%）」「自分やほかの人の大切さを認め合う教育（84.8%）」の取り組みを強化する。
- ②学力調査：市の平均値を目標に、個別最適な学びを実現するための授業改善に取り組む。

【表1】学力調査結果の比較

教科	学年	令和5年度（市と比較）	令和6年度（市と比較）	教科	学年	令和5年度（市と比較）	令和6年度（市と比較）
国語	4年	▼ -0.2%	▼ -6.6%	算数	4年	△ +2.3%	▼ -5.8%
	5年	▼ -5.1%	▼ -9.7%		5年	▼ -3.9%	▼ -12.5%
	6年	▼ -8.6%	▼ -4.8%		6年	▼ -9.6%	▼ -9.2%

- ③不登校：一昨年度から不登校児童数は約30名になるため、学級集団づくりと学習活動の工夫、居場所づくり、保護者・関係機関との連携を進める。

【表2】年間の欠席90日以上児童数

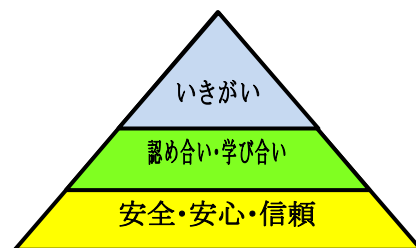
年度	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6
児童数	4	3	2	7	7	8	14	16

【表3】事故欠席（1日あたり）数

年度	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6
児童数	4.5	4.7	2.7	6.5	7.7	6.9	14.1	15.0

(3) 教育活動の理念

「安全・安心・信頼」を基盤とし、「認め合い・学び合い」を中核とし、「いきがい」をうむ。この考え方を「第九小学校の三つの働き」と呼び、めざす学校像とする。そして、教育目標の実現に向けた以下の学校経営の重点を設定し、具体的な方策に取り組む。



2 教育目標

人間尊重の精神を基調として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざす。郷土を愛する多文化社会の一員としての自覚を高めるために、以下にめざす児童像を掲げる。

- ◎よく考え自ら学ぶ子（重点目標）
- 思いやりがあり助け合う子
- 明るく健康な子

3 学校経営の重点（4項目9つ） 【指標】

(1) 認め合い・学び合いの場づくりによる、いじめの防止・不登校状況の改善

【不登校児童・事故欠席数、児童の様子、アンケート】

- ①地域、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー、家庭と連携を図り、不登校児童の状況把握及び個別の支援を行う。校内別室「けやきゅうの部屋」を継続、充実させる。
- ②週1回の学校いじめ対策委員会において学校の方針を協議し、普段の見とりや子ども見守りシート、ふれあい月間アンケートなどの実態把握に基づき、いじめの未然防止、早期発見、認知、対応策について全教職員の共通理解及び組織的な対応を図る。
- ③けやき教室、スクール・カウンセラー等と連携し、特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会

を定期開催し、全教職員で特別な支援を要する児童の共通理解を図り、実態に即した指導を推進する。

(2) ユニバーサル・デザインの視点に基づく授業改善、検定・コンクール等への挑戦による学力向上

【学力調査、アンケート、検定等の結果】

- ①教員研修を組織的・計画的に位置づけ、「楽しくて力の付く・一人でも多くの子が参加できる授業」を共通目標とし、ユニバーサル・デザインの視点に基づく授業改善・授業力向上を図る。
- ②各種学力調査及び「はちおうじっ子ミニマム」等の結果を分析し、課題を把握し、実態に即したドリル型学習コンテンツの活用や算数補習教室を計画的に実施し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- ③検定・コンクール等への挑戦を推奨し、全校朝会で紹介したり、あゆみに記録したりすることで、地域での活躍を奨励し、自己肯定感を育む。

(3) 地域教材の開発・充実、人材の発掘・連携【地域学習の実践、アンケート】

- ・日本遺産である高尾山や、八王子市及び地域の歴史・文化・スポーツについて学ぶ教材・人材を発掘し体験的・探究的な活動を通して、よりよい生活を創り出す、生きる力の基盤を培う。

(4) 情報発信による地域に開かれた学校づくり、小中一貫教育の推進【アンケート】

- ①第二中学校グループで育てたい児童・生徒像を「誠実で、協調性があり、粘り強く困難に立ち向かう児童・生徒」とし、発達段階を踏まえた系統的な指導による「よき社会人」の育成をめざす。
- ②学校 HP 等による積極的な情報発信、家庭・地域と協働した教育の充実、企業の協力や教育資源を活用したキャリア教育の実践を図る。

4 教育目標実現に向けた「九小 九つの取組」

これまで取り組んできた「九小 九つの取組」の内容を更新しながら通年で指導するとともに、重点的に取り組む月や行事を設け、児童・教職員・保護者・地域の四者で共有し実践する。今年度はこれまで以上に目的意識をもって九つの取組を実践・振り返りを通して定着させていく。

	「 」…九つの取組 ◆…具体的な児童の姿 ○…具体的な取組内容	重点月・行事
あ	「あいさつ、ありがとう、あとかたづけ」 ◆感謝・あいさつ・あとかたづけのできる子 ①日常的なあいさつを励行するとともに、あいさつ運動を児童会中心に行う。 ②学級・学年・異学年・地域等との交流などを通して、「ありがとう」という場を増やす。 ③清掃活動や授業での後かたづけを大切に、他者意識や愛校心を育む。	4・9・1月 学期始め (始業式・入学式)
い	「いれて、いいよ、いっしょにやろう。(命を大切に)」 ◆自分の居場所をつくれる子 ①自分の意見を主張しながら、友達とのおりあいもつける力を育てる。 ②クラス遊びなどの学級活動や集会活動を通し、子どもたちに多様な集団遊びを伝える。	
う	「うたごえが、いっぱい」 ◆友達と合唱や合奏を楽しむ音楽好きな子 ○音楽集会などの行事、音楽を取り入れた学級活動や帰りの会・朝の会を工夫する。	6・10月 音楽集会・学習発表会
え	「絵が好き、絵になる」 ◆創作活動や図画工作・美術が好きな子 ○児童の作品を校内に数多く展示するとともに、美術作品とふれあう環境を豊かにする。	7・12・3月 学期末・保護者会
お	「音読・暗唱・第九小の100冊」 ◆読書や音読、暗唱に励み、語いが豊かな子 ①「おんどくだいく」などを活用し、家庭学習も含めて音読・暗唱・書き写しを促進する。 ②全校で選定した「第九小の100冊」の読書活動をすすめる。 ③1～4年生まで、保護者や地域の方々に公開する音読・暗唱の会を実施する。	11月 読書週間
か	「書いて考える。考えて書く。」 ◆自分の考えについて書くことを通して表現できる子 ○ノート指導の充実、日記・書き写しなどの、書く活動を重視する。	7・8月 文月・夏休み
き	「聞いて共感する。共感して聞く。」 ◆相手の立場にたって共感的に聴く子 ①対話の場面や、お互いに尋ね合う活動を増やす。 ②特別活動や異学年交流など、話し合い聞き合う場を意図的に設定する。	6・11・2月 ふれあい 月間
く	「苦しみに耐える粘り強さ」 ◆粘り強く努力する子 ○なわとび、持久走、読書、暗唱、書き写しなどの継続が成果に結びつきやすい活動を重視する。	2月 なわとび 月間
け	「健康な生活習慣、早寝・早起き・朝ご飯と外遊び」 ◆健康な生活習慣を身に付ける子 ①朝会や学級指導を通して、健康な生活習慣について指導する。 ②生活の改善を保護者に協力を求め、早寝・早起き・朝ご飯と集団外遊びの充実を図る。	5月 運動会